

伝統文化教育が求められる背景

1 学ぶ機会の減少

我が国の伝統文化を理解し大切にできるようにする教育は、従来、日常生活の具体的な時と場に応じて行われてきたものである。しかし、時代の変化とともに、家庭や地域社会において子どもたちが伝統や文化について理解したり経験したりする機会が減っている。



子どもたちが日本の伝統や文化の価値を学ぶためには、学校が家庭、地域社会と連携を図りながら、計画的・系統的な指導を展開することが必要である。

2 国際社会に生きる日本人を育成する

国際化がますます進展する中、子どもたちが国際社会に貢献し、世界の人々から信頼される日本人となるためには、異文化に対する理解を深め、異なる文化をもつ人々と協調していく態度を育てる必要がある。



異文化を理解し大切にしようとする心は、自国の文化理解が基盤となって、育まれるものである。

そのために、学校は、子どもたちが日本の伝統文化のよさや豊かさに気づき、その価値や意義を理解するとともに、自分の生まれ育った郷土や自国に誇りと愛着をもち、自分が日本人であるというアイデンティティを確立する教育を推進することが必要である。

学校教育法（平成19年6月27日法律第96号）

（義務教育の目標）

第21条 第3号

我が国と郷土の現状と歴史について、正しい理解に導き、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うとともに、進んで外国の文化の理解を通じて、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

■ 我が国と郷土を愛する

我が国や郷土を愛し、さらに、その発展を願い、それに寄与しようとする態度。

我が国と郷土を愛する態度を養うため、学校教育では、我が国や郷土の発展に尽くした先人の働きや、我が国の文化遺産や伝統芸能などについて調べたり体験したりすることを通じて、我が国の歴史や伝統文化に対する理解と愛情をはぐくむ指導を充実することが求められる。